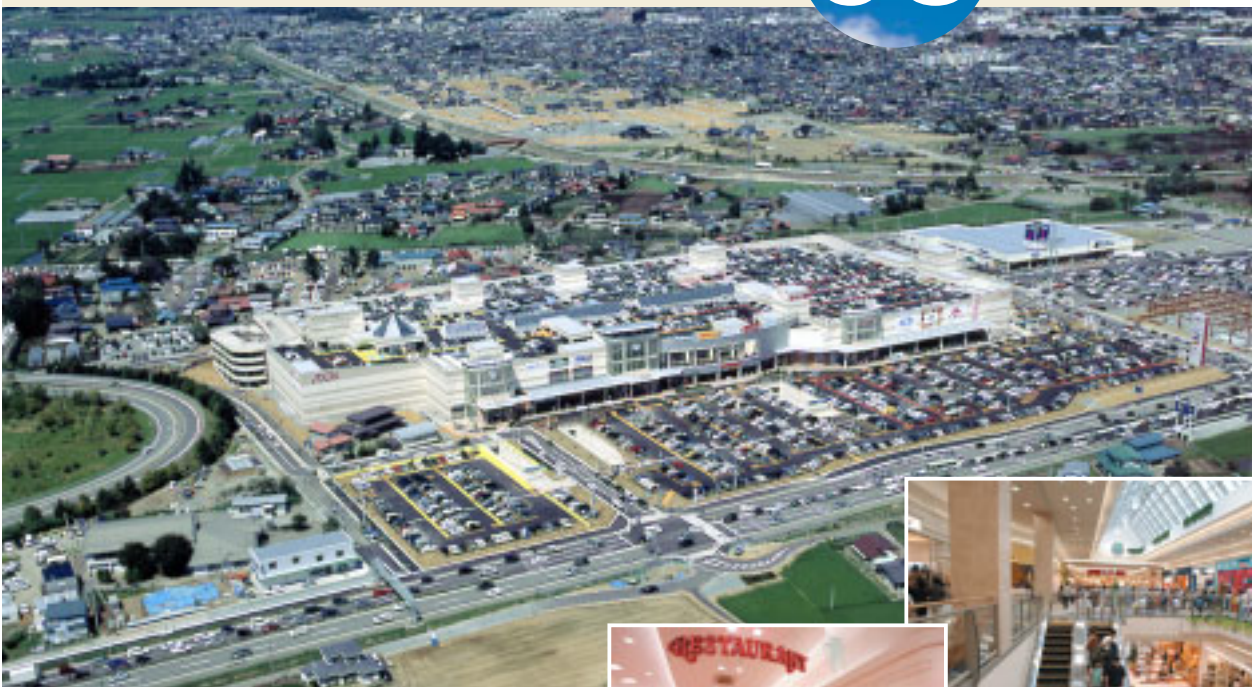


第 **93** 期中間事業報告書

2003.2.21～2003.8.20

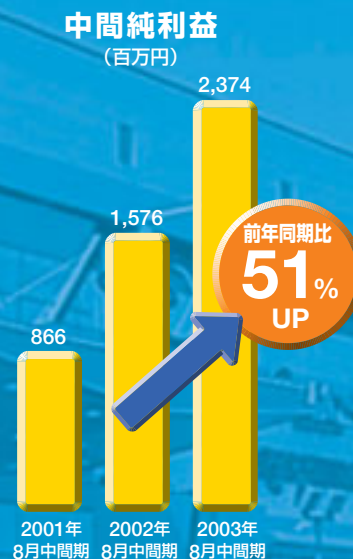


厳しい経営環境のなか、引き続き

ショッピングセンター（SC）の出店者の皆さまからの賃料を主な収益源とする当社の業績は、小売業界の動向と密接に関係しています。当中間期の小売業界は、長梅雨、冷夏などの天候不順の影響で全般的に販売不振に陥るという厳しい状況で推移しました。

こうした環境下にもかかわらず、当社の既存SC（前年同期と比較可能な13SC）での専門店売上は前年同期比7.6%増となりました。この売上の増加により、既存SCの営業収益は4.1%増となりました。

さらに昨年9月に開店したイオン高岡SCの寄与、保険代理店事業の好調な推移により、当中間期の連結営業収益は前年同期比12.7%増の163億円となりました。利益面については、コスト管理を徹底して行ったことで営業収益の伸び率を大きく上回り、営業利益は同22.8%増の48億円、経常利益は同36.8%増の43億円、中間純利益は同50.6%増の23億円となりました。

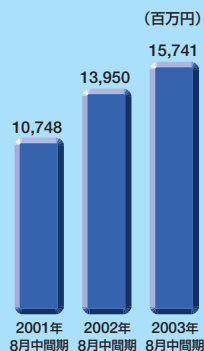


増収増益となりました。

事業の種類別の状況

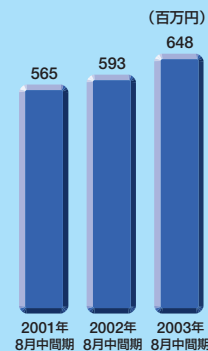
SC事業

主力となるSC事業では、2003年8月にイオン盛岡SCをオープンしました。既存SCでは、大型リニューアル（イオン三光SC）、シネマコンプレックスの導入（イオン鈴鹿SC、イオン柏SC）、専門店の入れ替え（全国1,465店のうち43店を入れ替え）などSCの鮮度維持に取り組むとともに、テレビ・新聞など広告宣伝、お客さま参加型イベントの実施、お客さまのご要望にもとづく施設の改善など、集客力の向上に努めました。この結果、当事業の営業収益は前年同期比12.8%増の157億円となりました。



保険代理店事業

保険会社が代理店の統廃合を進める厳しい状況のなか、生損保を扱う総合保険代理店の強みを活かし、がん・医療保険や自動車保険など個人分野における拡販が順調に推移しました。また個人向けの販売チャネル拡大に向け、昨年度から導入を開始したSC内での保険販売カウンターをイオン盛岡SCにも設けました。法人分野でもイオン各社に対するきめ細かい提案型営業を行い、契約数を伸ばしました。この結果、当事業の営業収益は前期比9.2%増の6億円となりました。





グローバルな競争力を持つ SCディベロッパーを目指します。

世界トップテンを目指す長期ビジョン

当社は、SC専門ディベロッパーのパイオニアとして、SCの開発、運営・管理における専門性をさらに高め、安定的な成長と収益を確保できる事業構造の構築を進めています。今後10年間の長期ビジョンとしては、商業施設面積300万m²以上、50SC以上を達成し、世界のトップテンにランクインすることを目標に掲げています。その実現に向けた第1ステップとして2003年度より3カ年の中期経営計画をスタートしました。営業収益530億円、当期純利益70億円、ROA(総資産当期純利益率)3.5%以上を目指して、8SC以上の開設に取り組み、商業施設面積を130万m²にまで拡大する計画です。

中期経営計画達成への諸施策

当社の利益成長には、新規SCの開設と既存SCの強化が不可欠です。中期経営計画で8SC以上の新規開店を目指すなか、当中間期にはイオン盛岡SCをオープンしました。また、2003年12月には群馬県太田市でイオン太田SCが開店します。来年度には静岡県浜松市、大阪府泉南市の2カ所で開設する予定で準備を進めており、この他にも目標を達成するに足る候補地を確保しています。さらに、50SC体制構築に向けよりよい物件を発掘すべく、全従業員が開発担当者という意識で、あらゆるルートを活用して用地の情報収集に努めています。

既存SCの強化については、2003年度下期にイオン柏SCで、2004年度にはイオン下田SCなどの増床・リニューアルを実施する計画です。

イオン浜松志都呂SC (静岡県)



イオン泉南SC (大阪府)



保険代理店事業については、引き続きビジネスリスクの多様化に対応した提案型の営業を進めるとともに、個人分野にさらに力を入れていく方針で、SCでの保険販売を拡大し店頭での営業活動を強化していきます。

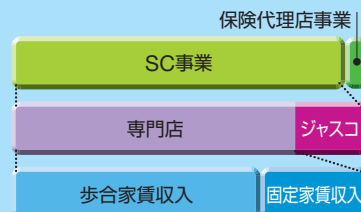
プロパティ・マネジメント事業に着手

世界トップテン入りを実現するため、新たな分野としてプロパティ・マネジメント事業にも挑戦していきます。これは、SCの企画・開発からテナントリーシング、運営、施設管理まで、SCの開発・運営に必要な業務の全体または一部を請け負うビジネスです。日本では、施設管理の受託だけにとどまっているケースが大半で、商業施設のプロパティ・マネジメント・サービスをトータルで提供している企業はまだ存在していません。当社ではこれまで

イオンモールの収益構造

当社の収益の96%が、SCに出店する店舗からの賃料収入で、核店舗である「ジャスコ」からの賃料と専門店からの賃料に大きく分けることができます。「ジャスコ」からの賃料は固定制で賃料収入全体の約2割を占めます。専門店の家賃設定では、固定制と売上に比例する歩合制の両方を採用。

歩合制による専門店からの賃料収入の割合は年々増えており、現在では専門店からの賃料収入全体の70%にまでおよんでいます。



に蓄積したノウハウを活用して本格的なプロパティ・マネジメント事業を展開し、今後10年でひとつの安定した収益源となるよう育成していく計画です。

その一環として、2003年7月に台湾のグローバルモール社とSCの建設業務支援契約を締結しました。これは、同社が台湾の中和市に建設予定のSCに関して、建設マスタープランの指導・助言を行うものです。また10月には、台湾の大手家電メーカー歌林のSC開発子会社と、同社が台北郊外の新莊市に建設予定のSCに関して、同様の契約を結びました。両プロジェクトにおいては、運営に携わることも今後検討していく予定です。

通期の見通し

私たち経営陣は、中期3カ年計画の達成に向け、ここに述べたような施策の着実な遂行に全力をあげて取り組んでいます。計画初年度となる2003年度の通期での連結業績は、営業収益345億円(前期比11.9%増)、経常利益92億円(同22.1%増)、当期純利益52億円(同34.1%増)を見込んでいます。当中間期に150万株の新株を発行しましたが、1株当たり当期純利益は、昨年度の167.73円を上回る172.11円を確保していきます。なお、株主の皆さまへの利益還元策の一環として、2003年4月10日付(基準日2月20日)で普通株式1株を1.2株に分割しています。

配当につきましては、昨年度は普通配当20円に上場記念配当5円を加えた増配を実施しましたが、2003年度についても、上場記念配当を普通配当に組み込み、1株につき25円を予定しています。今後も、安定的な配当を継続し株主の皆さまへの利益還元を図るとともに、事業基盤の強化を通じて競争力を高め、企業価値の向上と株主価値の最大化に挑戦していきます。

代表取締役社長 川戸 義晴

既存SCの活性化を推し進めました。

当社のSC事業の優位性のひとつは、既存SCの収益力を向上させる点にあります。小売に精通したディベロッパーならではの専門店サポート力に加え、SCの計画段階から活性化を織り込んで開発していることが大きなポイントです。当中間期も、さまざまな活性化策を講じてSCの鮮度を維持し、集客力・競争力強化を図りました。

2SCでシネマコンプレックスがオープン

当社では、既存SCに積極的にシネマコンプレックスを導入しています。2003年7月にイオン鈴鹿SCに8つのスクリーンを持つ「ワーナー・マイカル・シネマズ鈴鹿ベルシティ」が、8月にはイオン柏SCに8つのスクリーンを備えた「シネマビレッジ8」がオープン。これにより現在、当社の運営する15SCのうち、8SCでシネマコンプレックスを導入したことになります。



シネマビレッジ8（イオン柏SC）

イオン三光SCをリニューアルオープン



1996年にオープンしたイオン三光SCは、2000年に一度増床を行い、大分県北最大規模の商業施設となっています。当中間期にも大規模なリニューアルを行い、12店が新規に出店するとともに、13店が改装・移動。地域



のお客さまにとってより魅力あるSCに生まれ変わりました。当中間期は全SCのうち3.8%の専門店をリプレイスしました。今後も年5%を目標に、リプレイスを行っていく予定です。

シネマコンプレックスと 当社のSC

シネマコンプレックスとは、複数のスクリーンを擁することで同時期に異なる映画を上映できる映画施設のことです。当社がSCへのシネマコンプレックス導入を進めているのは、ショッピングだけでなくエンターテインメントも提供することでお客さまにとってのSCの存在価値を高めるためです。

ワーナー・マイカル・シネマズ
鈴鹿ベルシティ(イオン鈴鹿SC)



SCを活用して保険販売の チャンネルを拡げています。



イオン盛岡SCの保険カウンター

保険代理店事業では、イオンの一員であるというバックボーンを活かしてグループ企業やグループ従業員向けに保険商品を提案・販売しています。近年は特に個人分野に力を入れており、その一環として、2002年度からSCに保険販売のカウンターを導入し、専門店で働く方々やお客さまに商品をご案内しています。2002年度には、イオン東浦SC、イオン大和SCで導入。当中間期もイオン倉敷SC、イオン盛岡SCに専用カウンターを設置し、下期にはイオン成田SC、イオン岡崎SCに導入する予定です。来期以降も引き続き、SCという資産を活用して販売チャンネルの拡大を図っていきます。

2003年8月、新しいショッピングセンターが盛岡市にオープンしました。

2003年8月9日、イオン盛岡SCがグランドオープンしました。これは岩手県盛岡市が進める土地区画整理事業に参画して開発したSCで、市が進める新しい街づくりの中核的存在となるべく、地域の皆さまに快適で便利なショッピング環境を提供することを目指しています。

オープンは台風10号の影響で朝から雨となりましたが、1日で5万人を超えるお客さまにお越しいただきました。またオープンから1カ月間で100万人を超えるお客さまにご利用いただいています。



全長175mの専門店モール。1階の通路幅は8mでゆったりとショッピングを楽しんでいただけます。

長時間のショッピングの際でも足への負担が軽減されるよう、2階通路の床にはカーペットを使用しています。





太陽の光が差し込むガラス張りの天井に、高さ18mの吹き抜けと、開放的な空間をつくりだしました。



暮らしの中心となるSCを目指して

当SCは敷地面積74,784m²、商業施設面積41,245m²と、県下最大規模の商業施設です。核店舗の「ジャスコ盛岡店」と準核店舗の大型スポーツ専門店「スポーツオーソリティ盛岡店」をはじめとする114の専門店が出店。このうち60店が岩手県初出店のお店で、地域の皆さまに新しいライフスタイルを提案しています。

市を東西に走る国道46号線沿いに位置し、SCから南へは盛岡西バイパスが伸びるなど、車でのアクセスが便利な場所にあります。さらに約3km離れたJR盛岡駅からは路線バスが毎日運行。こうした便利な立地を活かして、日々のお買い物はもちろん、休日を楽しく過ごす場として地域の皆さまの暮らしに親しんでいただけるSCづくりに努めています。



アクセスに恵まれた立地により、盛岡市のみならず周辺地域からもご来店いただき、商圏人口は50万人へと拡大しています。

所在地	岩手県盛岡市上厨川字前潟22	
規模	敷地面積	74,784m ²
	商業施設面積	41,245m ²
駐車台数	2,800台	
商圏人口	約34万人(約14万世帯)	

MORIOKA

食料品からファッション・雑貨まで

地域最大級の広さの食料品売場を持つ「ジャスコ」を核店舗に、流行を発信する個性的なファッション専門店、雑貨店、ご家族で楽しめる大型アミューズメント施設「ブラザカブコン」、CD、映像、ソフトの「タワーレコード」など、バラエティに富んだ専門店が出店しています。



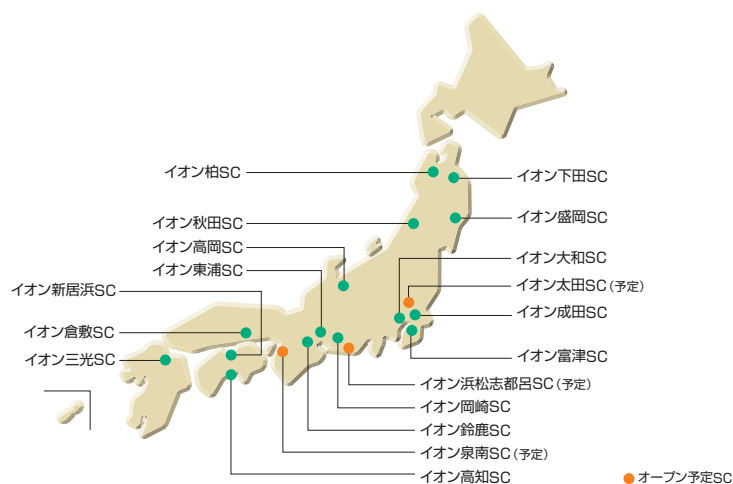
充実の飲食店

当社が過去に開発したSCのなかで最大級の全長130mのレストラン街(1階)には、15店の飲食専門店が出店。このうち12店が岩手県初出店の人気店です。2階のピクニックコートには12のファーストフード店と約740席を用意しました。

どなたにも使いやすい施設づくり

当社の他のSC同様、当SCでもユニバーサルデザインを採用し、すべての方に快適な施設づくりを行いました。また地域特性を考慮し、除雪対策として約1,200台を収容できる大規模な屋内駐車場を設置するとともに、すべての駐車場スロープに融雪装置を導入しています。





	開店日	住 所	開発方式	商業施設面積	駐車台数
イオン柏SC	1992年11月28日	青森県西津軽郡柏村	農地活用	35,989m ²	2,700台
イオン秋田SC	1993年 9月10日	秋田県秋田市	地域振興整備公団開発	65,194m ²	2,700台
イオン富津SC	1993年 9月25日	千葉県富津市	区画整理事業	32,425m ²	1,800台
イオン下田SC	1995年 4月22日	青森県上北郡下田町	農地活用	48,000m ²	4,000台
イオン鈴鹿SC	1996年11月29日	三重県鈴鹿市	工業用地活用	66,554m ²	3,500台
イオン三光SC	1996年12月 7日	大分県下毛郡三光村	農地活用	31,348m ²	2,500台
イオン倉敷SC	1999年 9月21日	岡山県倉敷市	工業用地活用	71,706m ²	4,000台
イオン成田SC	2000年 3月18日	千葉県成田市	区画整理事業	65,913m ²	3,500台
イオン岡崎SC	2000年 9月22日	愛知県岡崎市	工業用地活用	69,118m ²	3,500台
イオン高知SC	2000年12月23日	高知県高知市	工業用地活用	54,190m ²	2,800台
イオン新居浜SC	2001年 6月30日	愛媛県新居浜市	工業用地活用	50,215m ²	3,500台
イオン東浦SC	2001年 7月24日	愛知県知多郡東浦町	区画整理事業	56,334m ²	4,000台
イオン大和SC	2001年12月 1日	神奈川県大和市	工業用地活用	33,153m ²	1,900台
イオン高岡SC	2002年 9月19日	富山県高岡市	農地活用	64,534m ²	3,600台
イオン盛岡SC	2003年 8月 9日	岩手県盛岡市	区画整理事業	41,245m ²	2,800台

貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

	前中間期末 2002年8月20日現在	当中間期末 2003年8月20日現在	前期末 2003年2月20日現在
資産の部			
流動資産	8,320	9,816	9,453
固定資産	142,384	154,982	144,737
有形固定資産	125,376	141,084	132,306
無形固定資産	357	342	349
投資その他の資産	16,650	13,555	12,081
1 資産合計	150,705	164,799	154,190
負債の部			
流動負債	31,477	41,151	27,193
うち短期借入金（1年以内返済予定の長期借入金含む）	17,547	18,907	10,773
固定負債	97,617	94,512	103,094
うち長期借入金	55,327	49,962	59,351
2 負債合計	129,095	135,664	130,288
少数株主持分	122	155	140
資本の部			
資本金	6,065	7,796	6,065
資本剰余金	5,434	7,165	5,434
利益剰余金	9,484	13,531	11,786
その他有価証券評価差額金	504	494	476
自己株式	—	△ 7	—
3 資本合計	21,487	28,979	23,762
負債、少数株主持分及び資本合計	150,705	164,799	154,190

キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

	前中間期 自2002年2月21日 至2002年8月20日	当中間期 自2003年2月21日 至2003年8月20日	前期 自2002年2月21日 至2003年2月20日
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,976	6,637	10,824
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,841	△ 8,821	△ 4,675
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 109	1,600	△ 2,859
現金及び現金同等物の増減額	2,024	△ 582	3,289
現金及び現金同等物の期首残高	2,853	6,142	2,853
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	4,877	5,559	6,142

1

資産の状況

当中間期末の総資産は、前期末(2003年2月期末)に比べ106億円増加の1,647億円となりました。当社では中期経営計画にもとづきSC数を拡大していますが、新規SCに関しては借地に建設することを基本方針としています。そのため将来のSC用地確保のための固定資産増はあまり多くなく、資産の増加は期中に行ったSC新設・増床による建物などの増加によるものです。

総資産
(百万円)

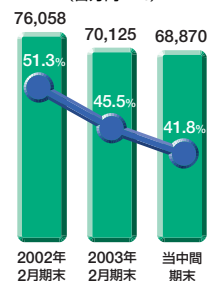


2

負債の状況

有利子負債残高は前期末(2003年2月期末)に比べ12億円減少し、688億円となりました。負債合計は、SCの新設・増床および今後オープン予定のSCへの投資で設備支払債務が増加したことなどにより、前期末に比べ53億円増加の1,356億円となりました。

有利子負債残高・有利子負債対総資産
(百万円・%)

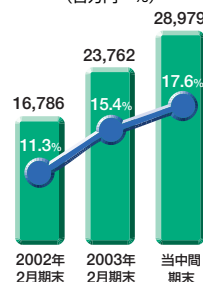


3

資本の状況

2003年8月6日に150万株の公募増資を行い、34億円を調達しました。これに中間純利益の増加が加わって、当中間期末の株主資本は前期末(2003年2月期末)に比べ52億円増加し、289億円となりました。なお公募増資で調達した資金はSCの設備資金に充当しています。また資本金は77億円になりました。

株主資本・株主資本比率
(百万円・%)



損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

	前中間期 自2002年2月21日 至2002年8月20日	当中間期 自2003年2月21日 至2003年8月20日	前期 自2002年2月21日 至2003年2月20日
営業収益	14,543	16,389	30,836
不動産賃貸収益	13,911	15,721	29,612
保険代理店手数料	593	648	1,156
商品売上高	39	20	67
営業原価	9,034	9,776	18,737
営業総利益	5,508	6,613	12,098
販売費及び一般管理費	1,533	1,729	3,057
営業利益	3,975	4,883	9,041
営業外収益	92	201	183
営業外費用	922	783	1,692
経常利益	3,145	4,301	7,532
特別利益	27	13	369
特別損失	391	182	1,058
税金等調整前中間（当期）純利益	2,781	4,132	6,843
法人税、住民税及び事業税	1,178	1,879	3,251
法人税等調整額	6	△ 142	△ 325
少数株主利益	20	21	38
中間（当期）純利益	1,576	2,374	3,878

剰余金計算書

（単位：百万円）

	前中間期 自2002年2月21日 至2002年8月20日	当中間期 自2003年2月21日 至2003年8月20日	前期 自2002年2月21日 至2003年2月20日
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高	3,311	5,434	3,311
資本剰余金増加高			
新株式発行増資による増加	2,122	1,731	2,122
資本剰余金中間期末（期末）残高	5,434	7,165	5,434
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高	8,386	11,786	8,386
利益剰余金増加高	1,576	2,374	3,878
利益剰余金減少高	479	629	479
利益剰余金中間期末（期末）残高	9,484	13,531	11,786

貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	前中間期末 2002年8月20日現在	当中間期末 2003年8月20日現在	前期末 2003年2月20日現在
資産の部			
流動資産	8,051	9,457	9,038
固定資産	139,651	152,576	142,239
有形固定資産	120,563	136,614	127,678
無形固定資産	295	326	331
投資その他の資産	18,792	15,635	14,229
資産合計	147,703	162,033	151,278
負債の部			
流動負債	31,147	40,873	26,868
固定負債	95,138	92,330	100,764
負債合計	126,285	133,204	127,633
資本の部			
資本金	6,065	7,796	6,065
資本剰余金	5,434	7,165	5,434
利益剰余金	9,413	13,380	11,669
その他有価証券評価差額金	504	494	476
自己株式	—	△ 7	—
資本合計	21,417	28,829	23,645
負債・資本合計	147,703	162,033	151,278

損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前中間期 自2002年2月21日 至2002年8月20日	当中間期 自2003年2月21日 至2003年8月20日	前期 自2002年2月21日 至2003年2月20日
営業収益	14,676	16,530	31,105
営業原価	9,327	10,087	19,315
営業総利益	5,349	6,442	11,789
販売費及び一般管理費	1,521	1,715	3,033
営業利益	3,828	4,727	8,755
営業外収益	108	214	196
営業外費用	888	751	1,628
経常利益	3,046	4,190	7,324
特別利益	31	18	368
特別損失	391	182	1,056
税引前中間(当期)純利益	2,685	4,026	6,636
法人税、住民税及び事業税	1,124	1,825	3,145
法人税等調整額	15	△ 139	△ 310
中間(当期)純利益	1,545	2,340	3,801
前期繰越利益	470	1,094	470
中間(当期)未処分利益	2,016	3,435	4,272

会社概要 (2003年8月20日現在)

社 名	イオンモール株式会社
英文社名	AEON Mall Co., Ltd.
設 立	1911 (明治44) 年11月
資本金	77億96百万円
本社所在地	千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1
従業員数	312名

取締役・監査役 (2003年8月20日現在)

代表取締役社長	川戸義晴	
常務取締役	横田稔弘	SC開発本部長
常務取締役	岡崎隆夫	保険事業本部長
常務取締役	羽間和彦	SC営業本部長
常務取締役	藤井聖司	管理本部長
取締役相談役	岡田元也	イオン(株)取締役兼代表執行役社長
取締役	三浦政次	経営企画部長
取締役	平林秀博	開発部長
取締役	吉村 惇	建設部長
取締役	西尾徹二	SC運営部長
取締役	敷中 博	高岡SCゼネラルマネージャー
常勤監査役	横井 賢	
監査役	山口篤一	(株)日比谷ビルディング代表取締役社長
監査役	大川貞夫	
監査役	早水恵之	イオン(株)執行役

株式の状況 (2003年8月20日現在)

会社が発行する株式の総数	80,000,000株
発行済株式の総数	30,005,616株
株主数	7,652名

大株主 (上位11名)	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
イオン株式会社	16,076	53.58
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,988	6.63
みずほ信託退職給付信託 みずほコーポレート銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託	1,333	4.44
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	937	3.12
UFJ信託銀行株式会社(信託勘定A口)	537	1.79
農林中央金庫	481	1.60
第一生命保険相互会社	379	1.27
中央三井信託銀行株式会社	359	1.20
みずほ信託銀行株式会社	359	1.20
日本生命保険相互会社	359	1.20
東京海上火災保険株式会社	359	1.20
計	23,173	77.23

- (注) 1. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) およびUFJ信託銀行株式会社(信託勘定A口)の所有株式数は、すべて信託業務にかかわるものです。
2. みずほ信託退職給付信託 みずほコーポレート銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託の所有株式数は、株式会社みずほコーポレート銀行が保有する当社株式を退職給付信託に信託したものです。
3. 所有株式数の千株未満は切り捨てています。
4. 議決権比率は、小数点以下第3位を四捨五入しています。

2003年12月 イオン太田ショッピングセンターオープン!



所在地	群馬県太田市石原町81番地	
規模(計画)	敷地面積	120,008m ²
	商業施設面積	62,046m ²
駐車台数	3,500台	
商圏人口	約67万人(約23万世帯)	
年商(計画)	280億円	

当社16番目のSCとなるイオン太田SCが、2003年12月5日、群馬県太田市の中心地にオープンします。オープンに先立って、10月19日、「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭を実施。地域の皆さま3,500名にご参加いただき、太田市の市木であるカエデをはじめ54種類の苗木2万本を植えました。

※「イオン ふるさとの森づくり」：新設するSCの敷地内にその地域に自生する樹木の苗木を地域の皆さまとともに植え、大切に育てていく活動です。



株主メモ

- 決 算 期 2月20日(年1回)
- 基 準 日 2月20日
(そのほか必要ある場合には、あらかじめ公告いたします)
- 定 時 株 主 総 会 5月(ただし20日までに開催)
- 1単元の株式の数 100株
- 公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞
(第92期から日本経済新聞の決算公告に代えて、貸借対照表ならびに
損益計算書を当社のホームページに掲載しております。)
- 名義書換代理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
- (郵便物送付先
電話お問い合せ先) 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 (03) 5213-5213 (代表)
- 同 取 次 所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
(2003年3月12日付で「みずほアセット信託銀行株式会社」と合併)
みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

【お問い合わせ先】イオンモール株式会社

経営企画部IR

〒261-8539 千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1

TEL. 043-212-6733

E-mail amirdept@aeon-mall.net

ホームページ <http://www.aeon-mall.net>

本誌は非木材紙・ケナフ紙を使用しています。

ケナフ : ハイビスカスの仲間。一年草です。パルプと性質が似ており、森林資源の保護のため非木材紙中心原料として注目されています。



木を植えています

私たちはイオンです